

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【比奈知ダム】

平成26年 3月

水資源機構 関西支社

【比奈知ダム】

1. 事業の概要

特になし

2. 治水

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
2.3 洪水調節の状況 本編 P2-13	・比奈知ダムにおける統合操作は数理的な手法を用いて行っているのか、それとも人間が総合的に考えて行っているのか。	・統合操作は、降雨予測と10分毎の実績の降雨データを基に流出量を算定し、放流量を絞った場合にどれくらい貯めることができるのか繰り返し計算・チェックを行いながら各ダムの操作を行っている。	-
2.3 洪水調節の状況 本編 P2-13	・複数ダムで管理を行っているところなどに対して、制約条件や予測を踏まえ、適切な操作の値を出してくるようなシステムを開発していくことも必要ではないか。 ・予測だけで統合操作を行うのは難しいが、効率的に操作するには降雨予測技術も進歩していることから、それらを支援システムとしてうまく取り込んでいくことも必要と考えられる。	・予測だけで操作の判断を行う場合、リスクが高くなると考えられる。そのため、当面は洪水実績をふまえて流出予測の検証を行い、精度向上を図っていくことが重要と考えている。	洪水対応実績を蓄積していくとともに、引き続き流出予測の精度向上を図っていく。

3. 利水

特になし

4. 堆砂

特になし

5. 水質

特になし

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証 本編 P6-106	・アユが湖内で繁殖しているという話もあったが、魚類調査の説明では、流入河川において、「増加傾向にあるアユは放流魚に由来するもの」と記載してある。これは両方いるということか。	流入河川には漁業協同組合が放流したアユと、ダム湖で再生産したアユの両方が生息していると思われる。 【委員会の意見により修正】 ・本編6-106 i i) 回遊性魚類の状況の記述は、「増加傾向にあるアユはダム湖で再生産したアユと放流したアユによるものと考えられる。」に修正。	-
6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証 本編 P6-106	・比奈知ダム上流の漁業協同組合が、ダム湖での再生産によりダム湖から遡上するアユが増えてきたので、放流するアユの量を減らそうとしており、これが実現すると、経済的にメリットがあると言われていた。また、アユの産卵床は、貯水池上流部の堆砂している部分と考えられ、今後、堆砂掘削しなければならないときに制約とならないよう対応を考える必要がある。	堆砂は計画を上回る速度で進行していることから、堆砂対策と産卵床の保全が両立する方法を考えていきたい。	堆砂状況について把握していくとともに、アユの放流量やダム湖からの遡上状況及び産卵状況等について、関係漁組と情報共有及び意見交換を図っていく。
6.6 環境保全対策の効果の評価 本編 P6-296	・下流河川への土砂供給試験も実施されているが、置土した土砂にはどの程度、礫分が入っているのか。 ・土砂供給量を増やすことは当然だが、河床には礫分が必要であることから、土砂供給する場合には粒径について工夫されるのが良い。	・土砂供給は、堆砂除去の土砂を使用しており、そのほとんどが砂であるため、土砂供給も砂が中心となっている。	礫分が多く含む堆砂土を採取し、土砂供給試験を行うとともにモニタリング調査も継続する。

7. 水源地域動態

特になし